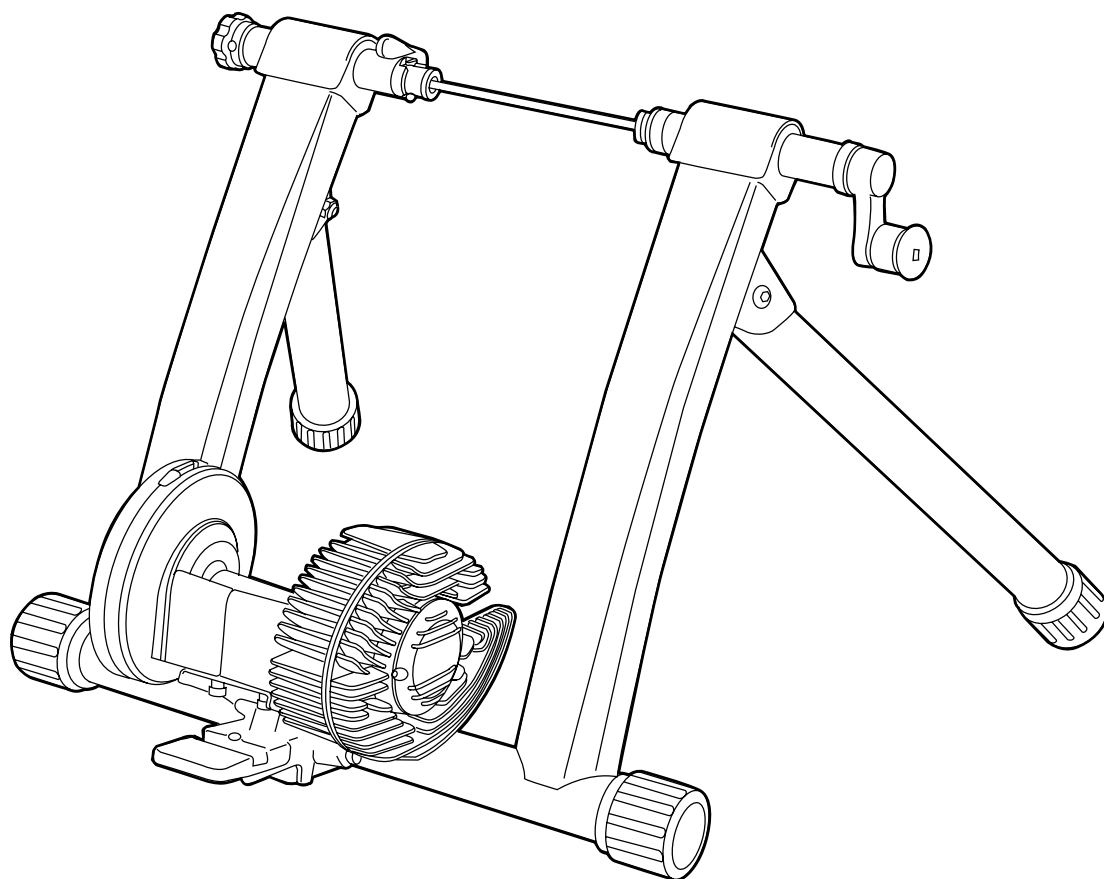


MINOURA VFS150 取扱説明書



ご使用の前にこの説明書をしっかりとお読みください

お問い合わせ先

ご質問がある場合は、まず添付の製品保証規定をしっかりとお読みになり、それでも不明な場合はお買い求めになったショップに最初にご連絡ください。

<販売元>

株式会社 深谷産業

〒 460-0015 名古屋市中区大井町 1-38

TEL (052) 321-6571 / FAX (052) 332-3166

fk.info@fukaya-sangyo.co.jp

www.fukaya-sangyo.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1

TEL (0584) 27-3131 / FAX (0584) 27-7505

infodesk@minoura.jp

www.minoura.jp

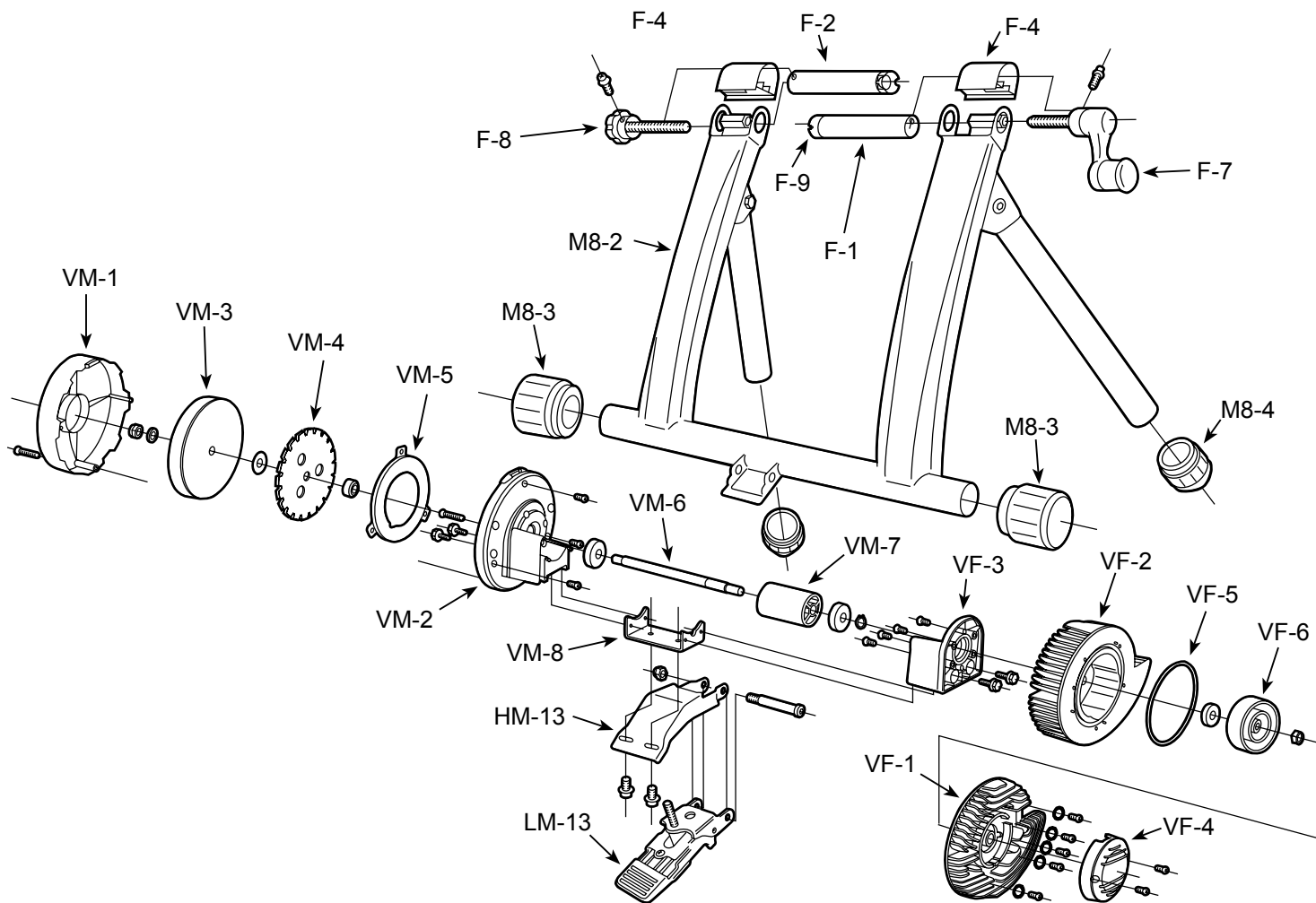
日本製

MINOURA

注意していただきたいこと

- 通常の2輪自転車専用です。タンデムやリカンベントではバランスが確保しにくくなるため、使用をお勧めしません。
- お使いになる自転車の後輪がクイックリリース式の場合は、添付のものと交換してください。弊社は添付のクイックリリースを使用したときのみ、その安定性を保証します。すべての他社製クイックリリースを使用したことによるあらゆるトラブルに関しては、その責任を負いません。
- VFS150はハブナット式後輪アクスルとも互換性がありますので、そのままお使いいただけます。ただしその際は右側カップリング (F-1) から黒い樹脂のハブナットプロテクタ (F-9) を取り外してください。
- 24インチから27インチ /700cのホイールサイズに適合します。26x1.75インチサイズより小さいタイヤを使用する際は、添付のZ型「小径ホイールアダプタ」を装着してください。
- VFS150を使用するには組み立てが必要です。正しい工具 (10mm スパナと M4 六角レンチ) を用意してください。工具はキットには添付されていませんので、ご自身でご用意ください。
- 安全にご使用いただくため、水平で平坦な床面に設置してください。傾斜地ではトレーニング中のバランスが崩れ、転倒する恐れがあります。
- 床やカーペットをトレーニング中の汗やゴムキャップによる跡から防止するため、専用トレーニングマットや大きめのタオルを敷いてお使いください。
- タイヤ寿命を最大限に伸ばすため、ローラーのタイヤへの押しつけ量は正しく調整してください。調整を誤るとタイヤが急速に摩耗してしまうことがあります。
- 回転しているホイールやローラーなどに触れると怪我をします。トレーニング中は子供やペットなどを近づけさせないでください。
- ノンリモート式の負荷装置をリモコン式に改造することは、内部構造が異なるためできません。
- もしVFS150の使用中に異音や異臭がした場合、あるいはオイル漏れが発見された場合には、すぐに使用を中止し、お買い求めになったショップにご連絡ください。
- 自転車のトレーニング目的以外での使用に関しては、すべての保証が受けられません。弊社は負荷装置には1年間、フレームには5年間の品質保証を設けています。ただし弊社の製造上の不手際によるトラブルに関してのことだけに限定され、弊社の許可を受けていない勝手な分解や改造を施したものに関しては保証の対象外となります。また輸送中に発生した破損や部品欠品に関しては弊社の責任範囲外となります。運送業者にご相談ください。詳しくは添付の「品質保証規定」カードをお読みください。

VFS150 部品図



F-1 : 右側カップリング
 F-2 : 左側カップリング
 F-4 : カップリングカバー
 F-7 : ハブハンドル
 F-8 : ホイール位置調整ノブ
 F-9 : ハブナットプロテクタ

M8-2 : VFS フレーム
 M8-3 : ゴムキャップ (38mm)
 M8-4 : ゴムキャップ (35mm)

HM-13 : ベースプレート
 LM-13 : フットペダル

VF-1 : フルード外側カバー
 VF-2 : フルードケース
 VF-3 : フルード側内側ケース
 VF-4 : フルード外側キャップ
 VF-5 : オイルシールリング
 VF-6 : フルードカップ

VM-1 : フライホイールカバー
 VM-2 : フライホイール側内側ケース
 VM-3 : フライホイール (1.5kg)
 VM-4 : アルミローター
 VM-5 : 磁石 (ノンリモート用)
 VM-6 : 軸
 VM-7 : ドライブローラー
 VM-8 : つなぎ板

1. まず自転車の後輪のクイックリリースをトレーナーに付属のものに交換します。トレーナーのカップリングはこの付属のクイックリリースに合わせてありますので、弊社はこのクイックリリースを使用したときのみ、その安定性を保証します。



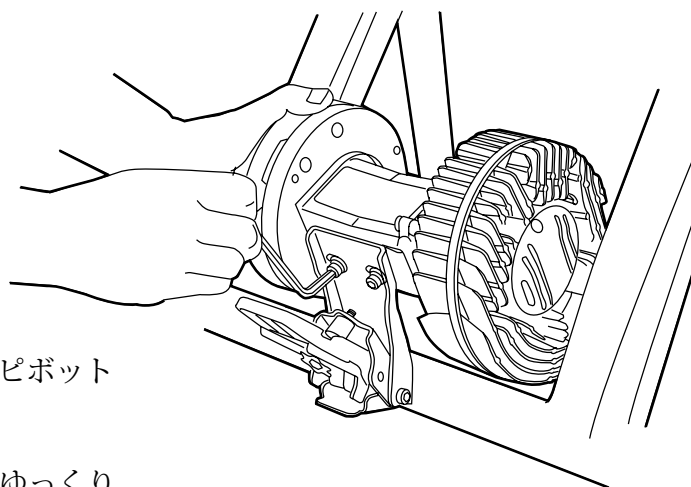
もしお使いになる自転車がクイックリリース式ではなくハブナット式の場合は、付属のクイックリリースは使用しません。ハブナット式ホイールをクイックリリース式に変更することは、ハブを交換しない限りは不可能です。



ハブナット式ホイールでトレーナーを使用するときは、右側カップリングからカップリングプロテクタ (F-9) を取り外します。

2. 負荷装置をベースプレート (HM-13) に取り付けます。(図A)

負荷装置をベースプレートに載せ、ローラーがほぼ中央に来るよう位置を調節してから、2本のボルトを M5 六角レンチで締め付けます。



(図A)

3. 負荷装置とフットペダルとをフレームに止めているピボットボルトの締め付け状態を確認します。

ボルトは、負荷装置を手で持ち上げて離したとき、ゆっくりと自重で下がっていく程度の固さで締め付けられていなければなりません。またフットペダルの操作で簡単に負荷装置が上下できなければなりません。

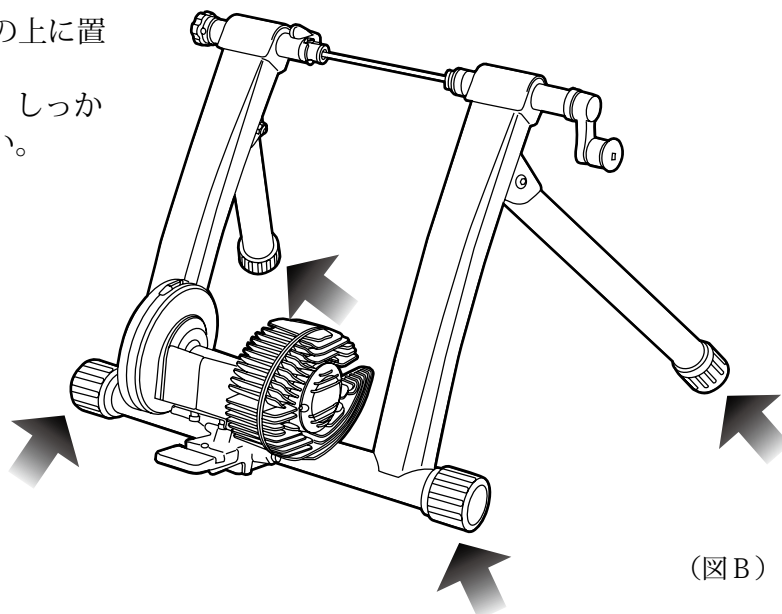
締め付けがきつすぎる、あるいは緩すぎる場合は、10mm スパナと M4 六角レンチで調整してください。

4. 両脚ともいっばいに開き、平坦で水平な床の上に置きます。

このとき脚の4点ともが同時に床に接地し、しっかりと踏ん張っていることを確認してください。

(図B)

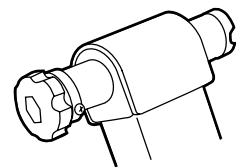
ヒント もし片脚が少し浮いてしまっている場合は、もう一方の脚を強く上に引っ張り、ボルト部分のガタを取ると直る場合があります。



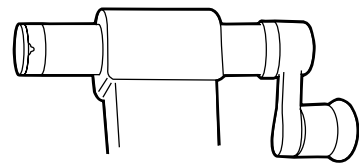
(図B)

4. 次に後輪のハブ軸を左右のカップリングで挟み込みます。

- 1) ホイール位置調整ノブ (F-8) を反時計方向に回し、左側カップリングを引き込みます。(図C)
- 2) ハブハンドル (F-7) も反時計方向に回し、右側カップリングをほぼいっぱいまで引き込みます。(図D)



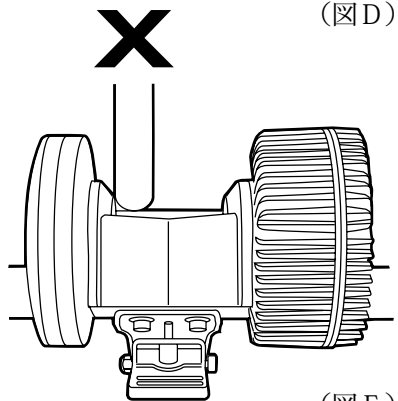
(図C)



(図D)



タイヤは負荷装置の樹脂部分には触れず、ドライブローラーだけに接していなければなりません。(図E)
ホイール位置調整ノブ (F-8) を回して、タイヤがドライブローラーのほぼ中央に来るよう、ホイール位置を左右に調整してください。



(図E)

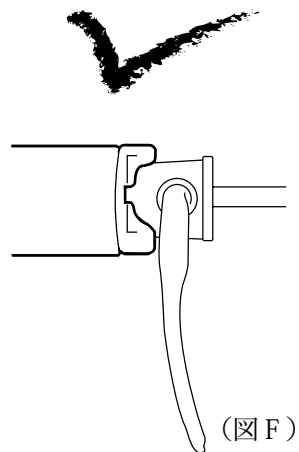


ハブハンドルは緩めすぎないでください。緩めすぎると内部のナットが緩んでしまい、空転してそれ以上締め付けることができなくなってしまいます。



ホイール位置調整ノブを、ホイールを締め付ける用途には使用しないでください。締め付けはハブハンドルのみで行ないます。

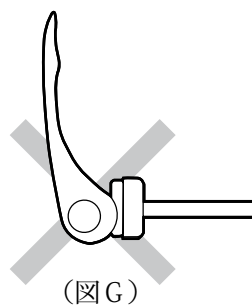
- 3) まずハブ軸の左側 (クイックレバー側) を左側カップリングに挿入します。クイックレバーのシャフトはカップリングの縁に乗り上がることなく、切り欠き部に収まっている必要があります。カップリング先端は手で回すことができます。(図F)
- 4) この姿勢を保ったまま静かに自転車を下ろしていき、ハブ軸の右側 (ナット側) を右側カップリングと同じ高さに合わせます。
- 5) ハブハンドルを時計方向に回し、ハブ軸を挟み込んでいきます。完全にハブ軸が挟み込まれ、ハブハンドルの回転に抵抗を感じてから、あと2回転だけ締め込みます。このときフレームがやや広がっていくのが目で見られます。



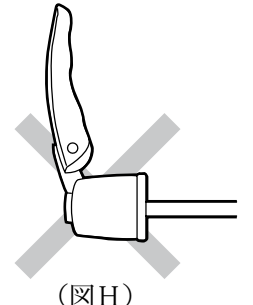
(図F)



カップリングは左右両側とも付属のクイックリリースにのみ合うように設計してあります。特に左側においては、安全に自転車を保持するためにも完全にぴったりと合うことが必要です。
レバーがシャフト先端にあるもの (図G) や、レバーをいっぱい倒しても鈍角にしかならないもの (図H) はこのトレーナーではいっさい使用できません。



(図G)



(図H)



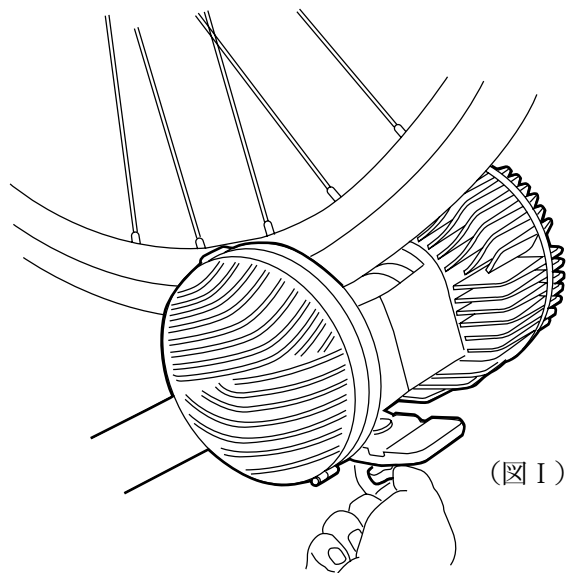
ハブ軸の締め付けすぎは、トレーナーフレームあるいは自転車に対してダメージを与える恐れがあります。
逆に締め付け不足だと、使用中に自転車が脱落してしまう恐れがあります。

5. ドライブローラーをタイヤに押し付けます。

- 1) まずフットペダルを持ち上げて負荷装置から切り離します。
- 2) フットペダル裏側のノブを回して、ドライブローラーがタイヤまで2～3mmまでの距離まで近づけます。(図I・J)



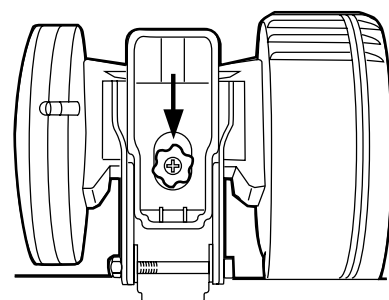
ローラーとタイヤとを接触させないでください。そのままではタイヤを押し付けすぎて、タイヤをひどく摩耗させたりバーストさせる恐れがあります。



ヒント もしノブを回しにくい場合は、負荷装置を手で持ち上げてフットペダルをフリーにしてから回してください。



もしこれ以上回せないほどノブを締め込んだのに、まだドライブローラーがタイヤに届いていなかったとしたら、ノブが内蔵のボルトの頭によりロックされてしまっていることが考えられます。



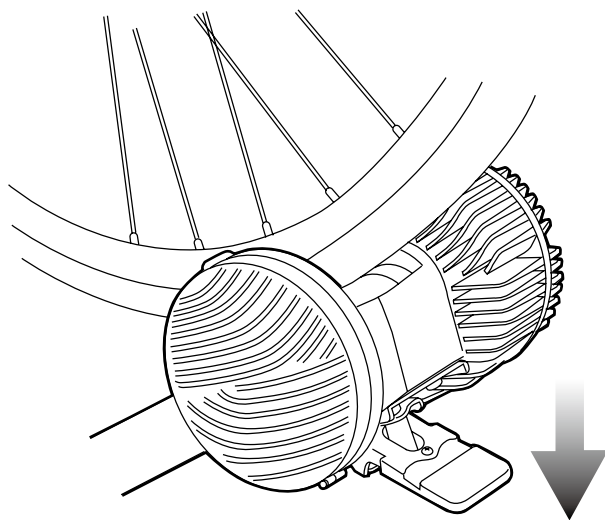
いったんノブを少し緩め、内蔵ボルトの六角形の頭をノブの六角孔の中に沈めるためノブを引っ張り、そのままノブを締め込んでいきます。(図J)

(図J)

- 3) フットペダルを押し下げ、ドライブローラーをタイヤに押し当てます。(図K)
ローラーが適切な深さでタイヤを押し付けていることを確認してください。



最も条件のよい状態は、ドライブローラーがタイヤを3～4mmの深さで押さえつけていることです。強すぎたり弱すぎると、タイヤを異常に早く摩耗させます(特に弱すぎる場合が顕著です)。またトレーナーの使用前にタイヤの空気圧も適切に調整してください。



(図K)

ヒント フットペダルは同じタイヤの押しつけ量をワンタッチで再現することができる便利な装置です。調整後はノブには触れないようにしてください。

- 4) ローラーをタイヤから切り離すには、フットペダルを手で持ち上げてやるだけでできます。

負荷調整のしかたについて

VFS150（ノンリモート）には負荷の調節機構がありません。負荷が強すぎる、あるいは弱すぎると感じる場合は、自転車側のギア操作で調節してください。

VFS150の負荷装置をリモコン調整式に変更することは、内部構造がリモコン式とは異なるため不可能です。

小径ホイールアダプタについて

<必要な工具>

10mm スパナ	1ヶ
M4 六角レンチ	1ヶ

26x1.75 インチよりも小さなサイズのタイヤを使用する際は、負荷装置とベースプレートとの間に付属のZ型「小径ホイールアダプタ」を取り付け、ドライブローラーの位置を持ち上げてやります。

アダプタの向きは、印刷面を上側にし、さらに印刷されている矢印を自転車の進行方向に向けます。
(図L)

もしアダプタを取り付けてもローラーがタイヤに届かない場合は、アダプタの取り付け方向が前後逆になっていないかどうかを確認してください。

最初に付いていたキャップボルトはベースプレート側に使用し、アダプタに付属の六角ボルトは負荷装置側に使用してください。

